

# 秋田の土地改良

# 4

2010・APR



みどり  
水土里ネット秋田

目次

水土里ネット秋田第52回通常総会……………	2	秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会第2回通常総会の開催…	14
全国水土里ネット第52回通常総会(本会・高員会長が理事に選任)…	6	秋田県耕作放棄地対策協議会第3回通常総会の開催…	15
第51回土地改良事業功労者表彰・農業農村整備優良地区コンクール表彰…	6	平成21年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会…	15
東北農業農村整備推進協議会(農地集団化促進部会)優良地区及び功労者表彰…	7	特集・農業水利施設内の「ゴミ」問題(シリーズ①)……………	16
土地改良事業振興基金制度のご活用を!……………	7	連合会日誌・会員だより……………	18
平成22年度秋田県人事異動関係(農林水産部関係)……………	8	土地改良区合併認可証伝達式(二ツ井白神、秋田県雄物川筋)…	19
平成22年度秋田県農林水産部関係新任挨拶……………	8	ため池百選……………	19
平成22年度本会機構図及び職員配置……………	12	インフォメーション……………	20

# 第52回 本会通常総会

## 厳しい状況を踏まえた、新たな事業展開を!!



3月19日、本会第52回通常総会が県社会福祉会館（秋田市）において会員132名（内委任状43名）が出席、来賓として佐竹敬久県知事、森多可志東北農政局次長、富樫博之県議会議長、京野公子衆議院議員、金田勝年衆議院議員、佐藤文隆県農林水産部長ほか関係者多数が臨席のもとに開催された。

総会では高員会長が「未だかつて無い、厳しい運営状況であるが、私共に課せられた会員サポートを中心とする使命・目的を、可能な限り果たして行きたい（詳細別掲）」と開会の挨拶を述べた。また、来賓祝辞として佐竹知事が「世界的経済不況や昨年9月の政権交代により国内の経済、社会情勢は先行き不透明な状況となっている。こうした中、県では新たな県政運営の指針となる『ふるさと秋田元気創造プラン』を取りまとめ、最重点の1つに、新農林水産ビジネス創出を位置づけた幅

広い農林水産関連施策を推進することとしている。国の農業農村整備予算は大幅に削減しているが、引き続き、中長期的な視点での予算確保を国に強く働きかけて行きたい」と挨拶、引き続き、平成21年度の功績者表彰として優良9団体及び個人14名の表彰、来賓の方々の紹介や祝辞が述べられた。

議事では、議長に山本郡岩堰土地改良区理事長菊池博悦氏を選出し、平成20年度事業報告及び一般会計収支決算、平成21年度一般会計収支補正予算（理事会専決処分）、平成22年度事業計画及び一般会計収支予算などが審議され、提出案件はすべて承認された。

なお、事業計画では、新たな業務として①水土里情報を活用した業務展開、②小水力発電部門等の業務開発、③農業水利施設内の「ゴミ」問題に関する調査・研究に、取り組むことが承認された。



最後に、黒子専務理事により決議文(別掲)の朗読があり、満場の承認を得て採択され、総会は終了した。

なお、今回表彰された土地改良功績者表彰(優良団体及び個人)の受賞者は次のとおり。



受賞者の方々

### 【団体表彰：土地改良区】

- ◆金章 大館市、由利本荘市子吉
- ◆銀章 能代市種、秋田市孫左衛門堰、仙北市神代
- ◆銅章 秋田市旭川筋、飯田川、潟上市天王、西目

### 【個人表彰】

山内幸雄、鷲尾弘、牧野一、近藤慶悦、澤石進、近藤一彦、田口光雄、草礪隆、菅原哲男、田口了健、柴田清徳、柿崎美和子、藤原アヤ、佐藤修一

## 第52回通常総会あいさつ



水土里ネット秋田 会長

高 貝 久 遠

会員の皆様には年度末のご多用の中ご参会を頂きまして、誠にありがとうございます。

また、ご来賓の皆様方には万障をお繰り合わせの上ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様には日頃、農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営に、特段のご指導・ご支援を頂き、この席をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

この後、引き続き表彰が行われますが、受賞される土地改良区並びに役職員の方々はいずれも農業農村整備事業の推進に貢献され、地域の発展に優れた功績を上げられた方々であり、心から敬意を表しますと共に、引き続き農業農村

の発展に特段のご尽力賜りますよう祈念申し上げます。

さて、一昨年アメリカに端を発する世界的経済不況からどうにか抜け出し、昨年6月に政府から景気回復宣言がなされた後、8月に実施された国政選挙において与野党逆転という劇的な政権交代が起きました。

その後の経過についてはご案内のとおりであります。平成21年度補正予算の事業仕分けによる見直しが行われた他、昨年暮れには前年度比36.9%という農業農村整備予算を盛り込んだ平成22年度予算案が閣議決定されたところであります。

本会としては、農水省及び全国水土里ネットの対応を注視しつつ県選出国會議員、秋田県、秋田県議会等に会員水土里ネットとともに鋭意要請活動を展開したところであり、去る1月18日には「平成22年度土地改良事業関連予算の確保に関する意見書の提出について」の請願書を秋田県議会宛提出し、全会一致により採択され、1月26日、衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣及び農林水産大臣宛提出されたところであります。

また、本日ご出席頂いております佐竹知事に要請した際には、「全国知事会等を通じて国に訴えていきたい」という力強い言葉を頂いております。

ご来賓の皆様におかれましても、引き続き本会の運営に対しまして特段のご配慮をお願いする次第でございます。

次に21年度の財政収支の状況を申し上げますと、骨格をなす受託事業につきましては、平成20年度から実施されました国・県の新たな契約方式での受託が想定を上回ったことなどを勘案して、前年度比4.2%増で計上いたしておりましたが、年度内に順調に事業の受託を確保できたことから2月補正後、当初比2億5千6百万円増の10億2千5百万円を計上しております。

お陰様で、一般管理支出の削減に努めたこともあり、当期の収支差額は1億円を越し、前期繰越収入と合わせますと2億4千1百万円を次期に繰り越すことが可能となり、未だかつて無い財政逼迫が想定される平成22年度の貴重な財源となっております。

次に平成22年度の予算編成方針を申し上げますと国の農業農村整備事業予算の激減に伴い、本会の収入の太宗をなす受託事業収入を前年比1億8千6百万円減の5億8千3百万円と昭和54年当時の水準まで落とさざるを得ない状況となりました。

予算編成に当たっては不要不急の経費については徹底的に見直し、一般管理支出で3千6百万円を削減することとしたものの平成21年度の繰越金2億4千万円余りを組み入れ、かろうじて運営が可能な状況であることから、引き続き外部への発注を抑え、事務経費の削減に努め、厳しい財務状況を乗り越えられるよう組織のスリム化を図って参りたいと存じます。

次に平成22年度の事業計画等につきましては、後ほど議案として詳細申し上げますが、2、3申し上げたいと思います。

一つは、雇用創出をもとにした「水土里ネット支援対策事業」でございます。依然厳しい県内の雇用情勢に本会としても社会貢献を果たすべく、また会員に対する技術的サポートは本会の主要目的でありますので、維持管理計画書の

作成支援等を内容とする本事業を引き続き継続して参りたいと存じます。

次に新たに取り組む業務といたしましては、本会が取り組んで参りました水土里情報が、新政権のマニフェストに掲げた農家戸別補償業務に活用できる可能性があることから関係機関の指導のもと活用について検討して参りたいと存じます。

また、地球温暖化防止の観点から水力発電が見直されており、農業用施設での小水力発電の実施可能性を検討する他、施設の管理主体である土地改良区を悩ませている水路のゴミ問題に関する調査・研究に取り組んで参りたいと存じます。

昨今、地球規模での食料、人口、環境問題が深刻化しており、最近のテレビ放送等では海外の農地の囲い込み、いわゆる世界農地争奪戦ですとか温暖化による稲の不稔あるいは、果物の糖度上昇等による商品価値の下落等が報じられております。

こうした中、農業農村には安全で安心な食料の安定的な供給により国民の命を守るとともに、農業用水による小水力発電、バイオマスエネルギーなど地域資源の活用による循環型社会の構築、更に人と自然、都市と農村の共生など新たな役割が求められております。農業農村がこうした役割を適切に果たしていくためには、いわゆる多面的機能を有する農地や農業用水などの貴重な資源の適切な維持・保全を図るとともに管理主体であります水土里ネットの活性化が不可欠であります。

水土里ネット秋田といたしましては、未だかつて無い、厳しい運営状況ではありますが、私共に課せられた会員のサポートを中心とする使命、目的を可能な限り、誠心誠意を尽くして果たすべく事業計画を策定し、平成22年度の予算を編成したところであります。

提案申し上げました各議案について、よろしくご審議、ご決定賜りますようお願い申し上げますとともに本日、ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念を申し上げ、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

## 決 議



今日、地球規模で「食料」や「水」のひつ迫、石油等の「エネルギー」の枯渇が懸念されるなか、我が国の食料自給率の向上と持続可能な農業農村のためには、「食料自給力の向上と安全安心な食料の安定供給」「農業の体質強化と持続的発展」「農村地域の活性化と都市農村交流の促進」を同時に実現していくことが求められている。

このためには食料生産と国土保全の根幹を担う農地・農業用水の適正な維持管理と更なる高度・効率的な利活用と、担い手の育成・農村地域の活性化・地域資源の良好な管理活用などを図る必要がある。

しかしながら国においては、平成21年度補正予算の見直し及び平成22年度予算において農業農村整備関連予算を大幅に削減したところであり、急激な予算の削減は関連事業の長期化、中止などを招くとともに、関係農家に大きな不安を与えるものである。

農業農村の再生は、戸別の所得補償だけでは展望が開けるものではなく、生産基盤や定住環境の整備などと連携しながら取り組むべきものである。

生産基盤である農地・農業用水等を質的・量的に良好な状態で確保し次世代に継承していくことは喫緊の課題であり、我々「水土里ネット」が担っている重要な使命である。

我々「水土里ネット」は、これまで培ってきた経験と技術を活かし、活力ある農村社会の構築と本県農業の体質並びに供給力の強化に、積極的に貢献していく覚悟である。

このため下記事項の実現を図るため、一致団結して、農業農村整備を推進していくことを本総会の名において決議する。

### 記

- 一、国民の必要とする食料を将来に亘って、安全で安定的に供給するため国は必要な予算を確保すること
- 一、農地、農道及び農業水利施設等の農業生産基盤の整備は食料の安定供給に不可欠であるから国と地方の適切な役割分担のもとで、計画的に推進していくこと
- 一、老朽化が進む農業水利施設の計画的な更新と適切な保安全管理を推進するなど、国はその責務を十分に果たすこと
- 一、農村は日本人の心のふる里で、いやしの場であるとともに地域共同体として農業生産力の源であり、自然景観保全、防災等の多面的機能を有していることから農地・水・環境保全向上対策を始めとする諸対策の充実を図ること
- 一、「水土里ネット」が取り組んでいる水土里情報利活用促進事業は農家戸別補償の実施に当たり極めて有効な農地情報のデータベースであることからその活用に努めること
- 一、頻発する災害への対応力を強化し安全・安心で快適な農村づくりと定住化を図るため、農地・農業用施設の防災対策と耕作放棄地の解消並びに中山間地域の総合的振興等に取り組んでいくこと

平成22年3月19日

秋田県土地改良事業団体連合会 第52回通常総会  
(水土里ネット秋田)



## 全国水土里ネット

## 第52回通常総会

## ■ 本会・高貝会長が理事に選任される

3月26日、日本都市センター(東京都)で、都道府県水土里ネットの関係者が出席して全国水土里ネット第52回通常総会が開催された。

総会は、提出議案の平成20年度事業追加報告及び収入支出決算、平成21年度事業中間報告及び収入支出補正予算、平成22年度事業計画及び収入支出予算などの審議が行われ、提出議案はいずれも賛成多数で議決された。

また、役員の新補欠選任が行われ、本会の高貝久遠会長を始め6名が新たに理事に選任された。

## ◇平成22年度事業計画【重点項目】

- ①食料自給力向上に資する農地の確保と高度利用の推進
- ②継続的な農業生産の礎となる土地改良施設の計画的な更新整備の推進
- ③土地改良施設の適正な維持管理体制の充実強化と多様な主体の参画促進
- ④農地と土地改良施設の高度利用のために必要なソフトインフラ整備の推進
- ⑤水土里ネットの時代に応じた役割と使命の在り方の検討
- ⑥農村の地域資源と田園環境の維持増進につながる活動の充実強化
- ⑦食料基盤確保と農村地域資源の保全等に係る国民合意に向けた広報活動の推進

## 第51回全国土地改良功労者表彰

並びに

## 平成21年度農業農村整備優良地区コンクール表彰

3月26日、シェーンバッハ砂防(東京都)で、第51回全国土地改良功労者表彰並びに農業農村整備優良地区コンクール表彰の表彰式典が開催された。

全国土地改良功労者表彰は、永年にわたり土地改良事業に尽力され、功績が認められた土地改良関係者(優良団体・個人)が表彰されるもので、今回は、農林水産大臣表彰の優良土地改良区が5地区、全国水土里ネット会長表彰として、金章36地区、銀章60地区、銅章45地区、さらに、個人96名が表彰され、本県からは、金章の本荘東由利土地改良区を始め、4地区、4個人が表彰された。

農業農村整備優良地区コンクール表彰は、農業農村整備事業の実施を契機として、優れた成果が見られ、他地区への波及効果が顕著であって先進的事例としてふさわしい地区が選定されるもので、農業生産基盤整備部門12地区、農村振興部門

5地区が表彰され、本県からは、北秋田市鷹巣土地改良区の「坊沢地区」が表彰された。

なお、本県関係の受賞は次のとおり。

## ◆全国土地改良功労者表彰

## 【優良土地改良区表彰】

- ◇金章：本荘東由利土地改良区◇銀章：秋田県仙南土地改良区・大館市南土地改良区
- ◇銅章：二ツ井町土地改良区

## 【個人表彰】

- ◇信田勇一(秋田県仙北平野土地改良区総括監事)◇伊藤礼二(山本郡藤里町藤琴土地改良区理事長)◇藤澤幸遠(秋田県田沢疏水土地改良区事務局長)◇高山陽二郎(湯沢市中央土地改良区事務局長)

## ◆農業農村整備優良地区コンクール表彰

## 【農業生産基盤整備部門】

- ◇全国水土里ネット会長賞：「坊沢地区」北秋田市鷹巣土地改良区

平成21年度 農用地等集団化優良地区等表彰

「坊沢地区」が東北農政局長賞を受賞

3月17日、「KKRホテル仙台」(宮城県)において、平成21年度農用地等集団化優良地区等表彰式が行われた。

表彰式では、東北管内の農林水産大臣賞1地区、東北農政局長賞3地区の表彰に続き、東北農業農村整備推進協議会長賞(優良地区並びに功労者)の表彰が行われ、また、後日に表彰される全国農地集団化協議会長賞(優良地区並びに永年勤続者)の紹介も行われた。

本県関係の表彰地区は、東北農政局長賞が「坊沢地区」、東北農業農村整備推進協議会長賞が3地区であった。

■東北農政局長賞

「坊沢地区」(北秋田市鷹巣土地改良区)

■東北農業農村整備推進協議会長賞(優良地区)

「杉沢地区」(秋田県南旭川水系土地改良区)

「大沢地区」(河辺土地改良区)

「女米木地区」(雄和中央土地改良区)



なんと借入団体負担率が **0.525%!!**

土地改良事業振興基金制度のご活用を!

本会会員が土地改良事業を円滑に推進するため、補助金・公庫資金・賦課金等の受領までに一時的に必要な「つなぎ資金」を、低利かつ速やかに融資することを目的としており、平成22年度は以下のとおりとなりますのでご活用下さい。

【債務保証限度、期間及び負担利子】

資金別	保証限度	保証期間	借入利率	利子補給率	借入団体負担率
災害応急資金	出資金額の10倍	12ヵ月以内	2.000%	1.475%	0.525%
補助金	出資金額の30倍	6ヵ月以内	2.000%	1.475%	0.525%
農林漁業資金					
災	0.80~1.70%資金	出資金額の30倍	3ヵ月以内	2.000%	-
非	1.70%資金				
団	1.70%資金				
県	1.75%資金				
団体運営資金(賦課金)	出資金額の10倍	8ヵ月以内	2.000%	1.475%	0.525%

〔取扱金融機関〕北都銀行本店

窓口は総務企画部広報・渉外班となります。  
TEL.018-888-2726

## 平成22年度 秋田県関係機関の紹介

秋田県は4月1日付けで、平成22年度定期人事異動を発表しました。農林水産部及び各地域振興局の関係機関の主な担当者は次の通りになりましたのでお知らせします。

### 【秋田県農林水産部】

部長・次長・参事・課長等の紹介(H22.4.1現在)

部長	三浦 庄助
森林技監	猪島 康浩
次長	藤井 英雄
次長	伊藤 淳
次長	池田 光晴
次長	清野 弘久
農林水産技術センター所長	菅原 仁司
参事	鈴木 誠
参事	金澤 千昭
参事(兼)水田総合利用課長	工藤 正義
参事(兼)林業木材産業課長	沓沢 了介
農林政策課長	奈良 博
農林政策課政策監	森屋 哲次
農地整備課長	菅原 徳蔵
農山村振興課長	保坂 龍弥
農山村振興課農山村ビジネス推進監	吉尾 聖子
団体指導室長	田中晋太郎
流通販売課長	照井 義宣
農畜産振興課長	佐藤 博
家畜生産対策室長	土田 正広

水産漁港課長	中村 彰男
森林整備課長	福井 敬二
森林整備課政策監	小川 正
農林水産部課長待遇	藤原 隆則

### 【県地域振興局】

各地域振興局長及び農林部長名等は次のとおり。

[鹿角地域振興局]

◇局長：三ヶ田良三 ◇農林部長：倉部明彦

[北秋田地域振興局]

◇局長：川原幸徳 ◇農林部長：渡辺兵衛

[山本地域振興局]

◇局長：加賀屋建一 ◇農林部長：宮崎一彦

[秋田地域振興局]

◇局長：森田新一郎 ◇農林部長：工藤孝夫

[由利地域振興局]

◇局長：伊藤邦夫 ◇農林部長：篠田信行

[仙北地域振興局]

◇局長：保坂 進 ◇農林部長：伊藤盛徳

[平鹿地域振興局]

◇局長：青木 満 ◇農林部長：柳原 守

[雄勝地域振興局]

◇局長：金田早苗 ◇農林部長：進藤 健

### 【その他関係部署】

生活環境部

次長

川村 文洋

八郎湖環境対策室長

佐々木次郎

建設交通部

技術管理室技術管理監

松橋 久光

出納局

参事

村上 克朗

## 新任のごあいさつ



秋田県農林水産部長

三浦 庄 助

水土里ネット会員の皆様におかれましては、日ごろから農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進につきまして、格段の御理解と御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年末の政府予算内示では、農業農村整備事業費が大幅に削減され、事業を契機とした農業生産法人の設立や、地域農業の存続をかけて地域一丸となって取り組もうとしている営農計画などへの影響が大変心配されましたが、要望した平成22年度当初予算については、ほぼ満額確



保できる見込みであります。これは、会員の皆様の一致団結した積極的な行動によるお陰でもあり、重ねて御礼申し上げます。

今年度は、県政運営の新たな指針となる「ふるさと秋田元気創造プラン」がスタートする年ではありますが、農業分野として、「農商工連携」などを通じて、秋田の食・農・観を丸ごと売り出す「融合と成長の新農林水産ビジネス創出戦略」を打ち出しております。この戦略では、秋田の「強み」を発揮できる販売環境づくりや、新農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくりのほか、収益性の高い戦略作物等の産地づくりなどを目指すため、各種取組を進めていくこととしており、その中で、生産基盤の整備や農山漁村環境の再生・整備などについては農業農村整備事業が担うこととなります。

本県では、全国に先駆けて水田フル活用による総合的な自給力向上対策を実施しておりますが、今後はさらに、米粉用・飼料用米など米の用途拡大を図るとともに、耕作放棄地等を活用しながら、様々な作物との組合せで複合的な土地利用型農業が展開されるよう取り組んでまいります。

また、農山漁村における生産活動が維持・継続され、農地等の多面的機能が持続的に発揮されるよう、人材の育成・確保や、農山漁村における新たなコミュニティ・ビジネスの展開を支援していくほか、引き続き地域の共同活動等によ

る農地・水・環境保全活動や農村資源の管理などの役割を担う土地改良区の体質強化についても支援してまいります。

先般、国から示された「食料・農業・農村基本計画」の中では、「戸別所得補償制度」の導入など、農政転換が随所に見られますが、農業・農村の再生に向けては、生産基盤や定住環境の整備など農業・農村が持続的に発展できる環境を整え、各種施策と連携してこそ実現できるものであると考えております。

県としましては、今後も、食料自給力向上や地域振興を推進していく上で、農業農村整備事業が不可欠であることを広く御理解いただけるよう広報していくとともに、国に対して予算の確保を積極的に要請してまいりますので、これまで以上の御理解と御協力をお願いいたします。

終わりになりますが、水土里ネット会員の皆様の益々の御健勝と御発展を祈念申し上げ、新任の挨拶といたします。



秋田県農林水産部次長

清野 弘久

政府予算の大幅削減など厳しい状況にある農業農村整備事業ですが、本県の農林水産ビジネスの展開を支える基盤づくりや産地づくり、安心して暮らせる農山漁村づくりなどを進めていく上では不可欠な事業であります。

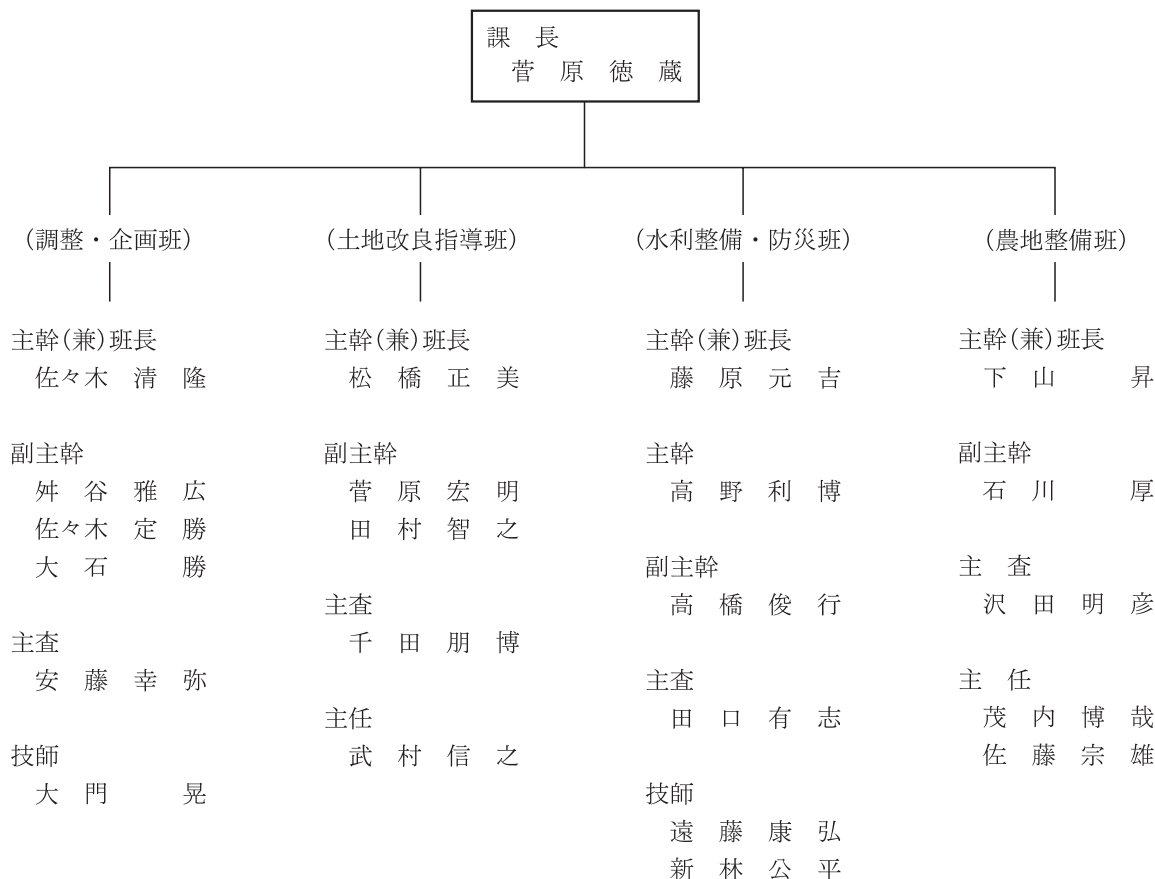
今年度は、農地整備課のほか、農山村振興課、水産漁港課など農業農村整備関係全般を担当いたしますので、引き続きよろしく願いいたします。

平成22年度

県の土地改良関係課事務分掌

(平成22年4月1日現在)

農地整備課

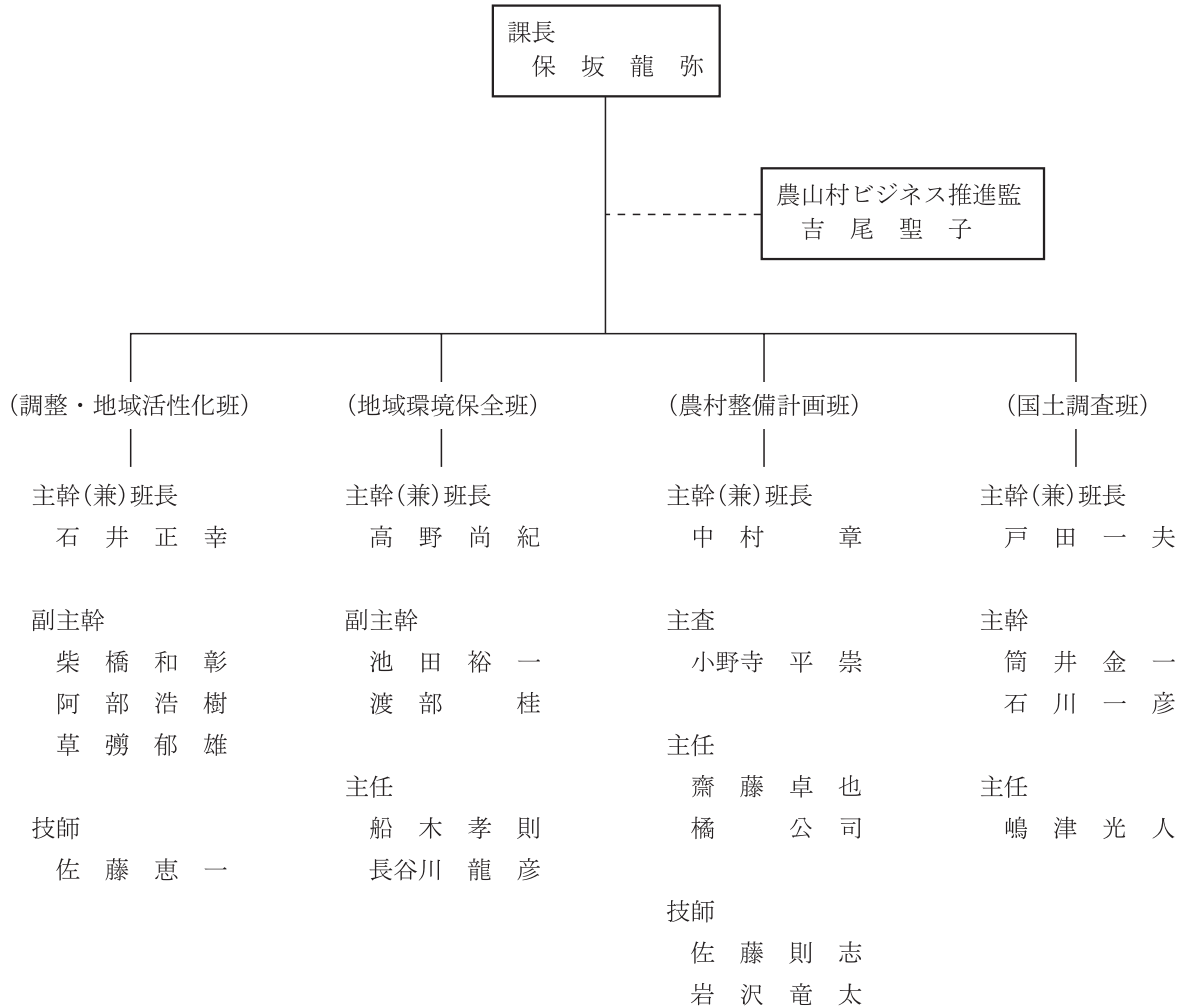


秋田県農林水産部  
農地整備課長

菅 原 徳 蔵

先行き不透明な時代は、過去に学ぶほかありません。秋田の農山村は、農民参加型のかんがい管理組織・土地改良区をベースに水系社会として発展してきました。今後は、こうした土地改良の歴史を再評価し、自信と誇りを持って一般国民向けの広報活動を強化するとともに、中長期的な視点に立った予算の確保に全力で取り組んでまいります。引き続き、これまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

**農山村振興課**



秋田県農林水産部  
農山村振興課長

**保坂龍弥**

平成22年4月1日付けの県の人事異動で、農林水産部農山村振興課長を令ぜられ、過日着任しました。

保坂課長は、平成17～18年度山本地域振興局総務企画部地域計画課長、平成19年度秋田地域振興局農林部農村整備課長を経て、平成20年2月産業経済労働部観光課韓国交流推進監に抜擢され、今日のアイリス効果につながる取組など、「秋田・ソウル国際定期便」存続のため獅子奮迅の働きをさせていただきました。

今後は、観光課での経験を踏まえながら、農山村地域活性化のため更なるご尽力を期待するものであります。

(紹介文作成／農山村振興課 石井正幸)



# 平成22年度本会機構図及び職員配置

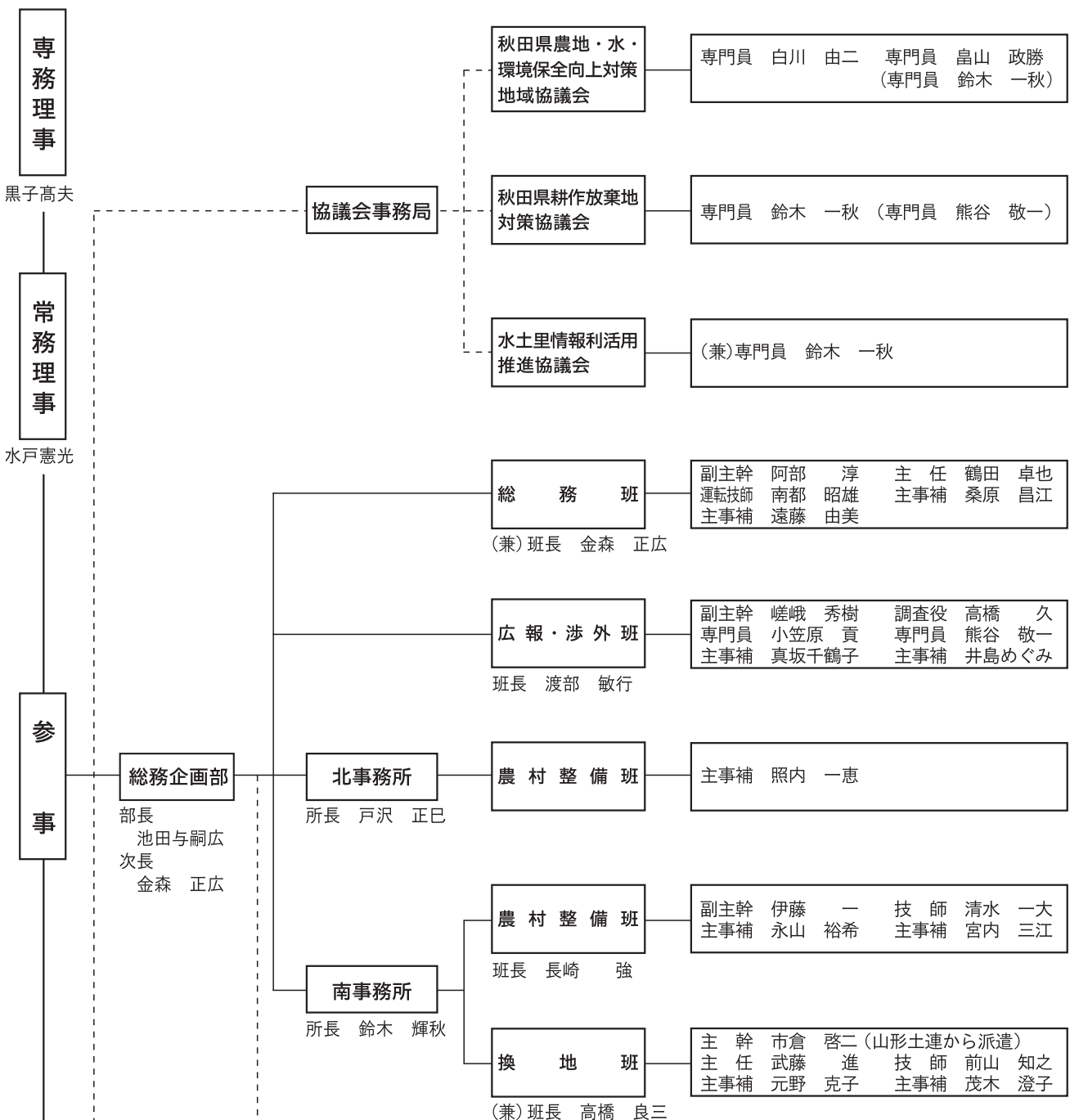
(平成22年4月1日付発令)

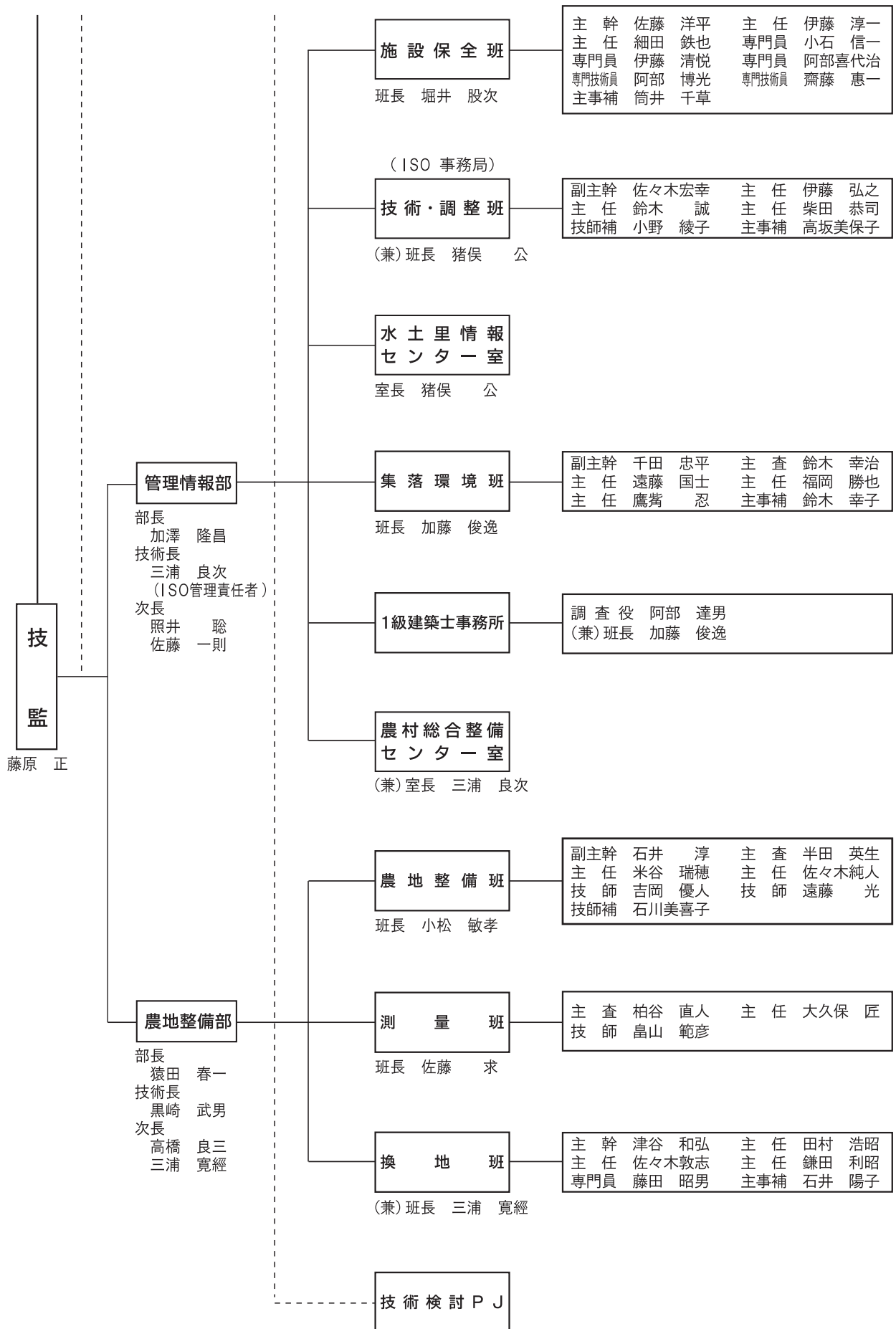
本会は、平成22年度の人事異動を4月1日付で発令した。事務局体制は3部11班2センター室とし、北南事務所は総務企画部の管轄となっている。また、協議会事務局として「秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会」、「秋田県耕作放棄地対策協議会」、「水土里情報利活用推進協議会」の事務運営を行うほか、総務企画部内に「農業水利施設内のゴミ問題に関する調査・研究」担当を設置した。

なお、任用期間終了に伴い職員5名（堀松紀人氏、芋田宏氏、宮田廣喜氏、矢守敏氏、佐々木彰氏）が退職となった。

平成22年度の本会機構図及び職員配置は、次のとおりです。

## 平成22年度 秋田県土地改良事業団体連合会職員配置図





# 秋田県 農地・水・環境保全向上対策地域協議会

## 平成21年度 第2回通常総会を開催

3月24日、秋田市（シャインプラザ平安閣）で「平成21年度秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会第2回通常総会」が、22会員団体（会員団体30団体）の出席で開催された。

総会は、黒子会長（本会専務理事）が「本活動も、今年で満3年を迎え、各地域の独自色が形として見えるようになった。NPO法人の設立により、農村地域の活性化を模索する地区や、耕作放棄地を再生し、市民農園や教育ファーム等の農業体験施設として蘇らせている組織など、県内一円で、様々な活動が展開されている。県協議会も、引き続き活動を支え、環境保全活動の大切さを、広く県民に訴えて行きたい。国の平成22年度予算も、衆議院を通過し、間もなく参議院で成立する見通しであるが、推進交付金については、交付4年目を迎えたことから、活動のルールが敷かれたものと判断され、対前年

比4割程になる見込みである。従って、より経費を掛けない、効率的な執行が求められるので、よろしく検討をお願いしたい」と挨拶し、引き続き、「平成22年度秋田県農地・水・環境保全向上対策（共同・営農・推進）に係る事業計画について（案）」等、4件の提出議案についての審議が行われ、いずれも原案通りに可決された。



### 〔平成22年度事業計画の要旨〕

#### ■活動組織

共同活動組織 709 営農活動組織 44 (51区域)

#### ■主な業務計画

月	項目	主な内容
4月～3月	活動組織説明会の開催	・共同活動実施に関する担当者会議等の開催(年2回) ・フォーラムの開催(9月頃)
10月～12月	対象活動組織の指導	・活動組織への経理事務指導等の実施
7月～2月	活動組織研修会開催	・テーマ毎に関する実践活動等の研修会開催
4月～3月	交付事務	・業務方法書に則り交付(共同・営農)709組織



## 秋田県耕作放棄地対策協議会

### — 第3回通常総会が開催される —

3月24日、本会第1会議室で「平成21年度秋田県耕作放棄地対策協議会第3回通常総会」が開催された。

総会は、黒子会長（本会専務理事）が「本事業の受け皿となる地域協議会が、県下全町村で立ち上がり、再生に向けた事業推進と啓発活動等への取組が行われた結果、41ヘクタールの放棄地が再生されており、本施策は浸透されつつある。しかし、事業仕分けによって、国の平成22年度予算は見送られ、繰越基金により、再生交付金は対応できるものの、推進交付金が削除

されたことにより、県協議会及び地域協議会の運営に多大な影響が出てきている。こうした中、県では、国の交付対象から外れた再生事業費について、県単独事業として支援する制度が創設された。このような県の施策や地域要望に応えるため、本協議会では自走式草刈機を2台準備したため、各地域協議会での十分な活用を期待している」と挨拶し、「平成22年度耕作放棄地再生利用緊急対策事業計画（案）」等、3件の提出議案についての審議が行われ、いずれも原案通りに可決された。

### 平成21年度

## 雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会

### 会長に伊藤稔秋田県仙北平野土地改良区理事長を選任

3月4日、秋田市「パーティギャラリーイヤタカ」において、平成21年度雄物・米代川地域広域基盤確立推進協議会が開催され、協議会委員及び幹事、事務局など70名が出席した。

協議会は、藤井弘道副会長（秋田県南旭川水系土地改良区理事長）の主催者挨拶に続き、東北農政局農村計画部の矢野均部長による来賓挨拶・基調講演が行われた。

講演は、農村の再生・活性化に向けての「農業農村整備事業の今後の展開方向」と題して行われ、「農村の6次産業化」、「都市と農村の交流等」、「集落機能の維持と地域資源・環境の保全」並びに「農山漁村活性化ビジョンの策定」についての詳細な説明が行われた。

その後、藤井副会長を議長に選任のうえ議事が進められ、空席となっていた会長の選任、平成22年度事業計画及び収支予算（案）等の審議が

行われ、新会長には伊藤稔秋田県仙北平野土地改良区理事長が選任されたほか、提出議案のすべてが承認された。

また、国営事業及び県営事業の状況報告では、県内の2国営事業所及び県農林水産部農地整備課の担当者から、各事業の進捗状況の概要等が報告された。



特集

## 農業水利施設内の「ゴミ」問題

シリーズ①

水土里ネット秋田 農業関連施設「ゴミゼロ」実践取組計画 H22.4.1

## 『県民の手で、食の安全・安心を』

クリーンな水環境を創出し、消費者への安全・安心な農産物を提供するために、私たちは農業関連施設におけるゴミ問題に取り組みます。

## ▼ 背景と位置付け

- ①農村地域では、混住化の進展や農作業方式の変化に伴い、農業用排水路への一般ゴミや農業用資材廃棄物等の投棄で、社会全体のゴミ問題と同等にその対策に苦慮しております。
- ②農業関連施設を管理する土地改良区は、ゴミ処理にスクリーン等を設置し多くの労力を払い、農作業に支障を来さないよう努め、その経費のほとんどを農家が負担する賦課金によって賄っております。
- ③国民の環境問題への関心が高まる中で、消費者は「食の安全・安心」を強く望み、生産者サイドでも化学肥料や農薬の大幅な低減を図り、消費者ニーズに応えるべく有機農業への取り組みも、多く見られるようになって来ています。
- ④クリーンな水環境の創出は重要課題であり、農産物の生産に欠くことの出来ない「水」への関心を深め、地域住民と農業者の共通意識による「ゴミゼロ」運動の展開が、結果として、米価の低迷により厳しい運営を強いられている土地改良区の運営改善に結びつくことを、目的とするものであります。

## ▼ 基本理念と基本目標

ゴミ問題を農業関連施設に特化し、活動を展開する。

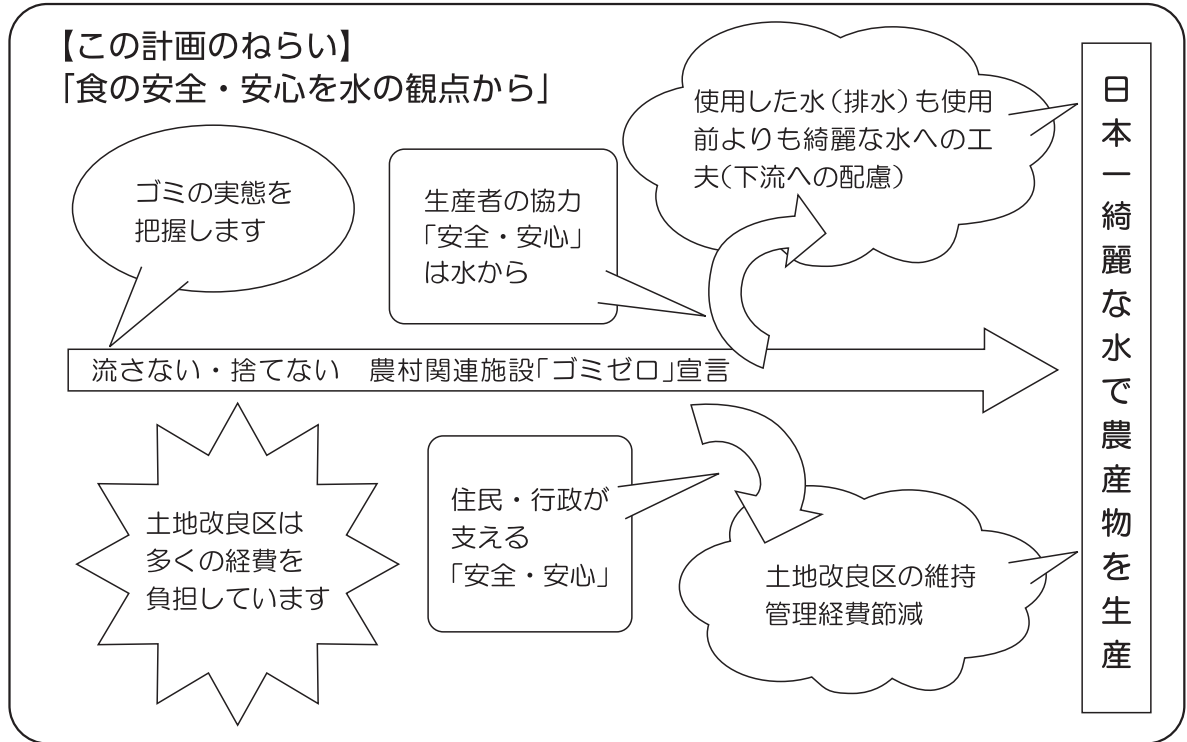
## ■ 基本理念

「安全・安心」な農産物生産環境の創出

## ■ 基本目標(取り組み事項)

- ①農業関連施設でのゴミ発生原因の究明(地域における状況把握と防止策の検討)
- ②土地改良区でのゴミ処理経費軽減の方策提案(土地改良区の実態を調査し負担軽減を図る)
- ③農業者への「水」に対する意識の浸透(下流域への配慮意識、水質保全)
- ④地域住民のゴミ投棄への意識改革(急ぐのではなく、熟成させる時間も必要、農地・水・環境との連携)
- ⑤行政、民間も含めたネットワークの形成(「安全・安心」への意識の共有)





▼ 期間と目標年次

ゴミの問題は、短期間で解決は難しく「ゴミがゴミを呼ぶ」環境の改善や捨てる側の「秩序性」への意識改革を図ることが必要であり、多くの時間と多様な団体との連携による地道な運動を継続していくことが大切であります。

農業用排水路の「水」は「食の安全」に大きく関係し、農業者や地元住民とともに、「人為的なゴミ投棄のない綺麗な水」で農産物を育てることへの関心を高めて行きます。



①実践計画の年次計画

すぐできること、少し考えながらできること、時間をかけてやることを踏まえ、短期計画、中期計画、長期計画に分類整理します。

●初年度(平成22年度)実践計画

- ・農業関連施設におけるゴミ発生状況の調査・観察
- ・ゴミマップを作成し、多くの県民に問題を実感してもらう
- ・モデル施設を設定し、ゴミの分類、発生原因の推定
- ・水土里ネットのゴミ処理実態調査
- ・パンフレットの作成(広報活動)
- ・農地・水・環境保全向上対策との連携

●2年度以降

初年度の実践を基に活動範囲の拡大

●5年度以降

水質の向上と河川ゴミの問題も含め、ゴミ対策流域ネットワークの構築

(問合せ先) 総務企画部広報・渉外班 農業関連施設「ゴミ」問題担当 TEL.018-888-2712



## 連 合 会 日 誌

4月15日	小水力発電事業施設研修 (～16日)	栃木県
4月15日	本会正副会長会議	本会「役員室」
4月16日	秋田県土地改良事業団体職員会秋田支部平成22年度通常総会	秋田市
4月16日	平成22年度秋田県土地改良事業団体連合会仙北支部全体会及び仙北土地改良推進協会総会	大崎市
4月22日	本会第1回監事会	本会「第3会議室」
4月22日	本会第1回理事会・役員会	本会「第1会議室」
4月22日	平成22年度東北管内農地・水・環境保全向上対策担当者会議	仙台市
4月23日	平成22年度土地改良換地対策全国協議会総会	東京都
4月23日	第39回秋田県土地改良事業団体連合会秋田支部通常総会	秋田市
4月23日	第6回秋田県土地改良事業団体連合会山本支部全体会	能代市
..... 今後の行事予定 .....		
4月26日	平成22年度秋田県土地改良事業団体連合会鹿角支部全体会	鹿角市
4月26日	東北管内耕作放棄地対策担当者会議	仙台市
4月27日	秋田県土地改良事業団体連合会第6回大館・北秋田支部全体会	大館市
4月27日	平成22年度東北農業農村整備推進協議会第1回幹事会	仙台市
4月27日	平成22年度秋田県土地改良事業団体連合会由利支部全体会	由利本荘市
4月28日	秋田県土地改良事業団体連合会雄勝支部全体会	湯沢市
5月13日	東北・北海道土地連連絡協議会第1回事務責任者会議・第50回通常総会	仙北市
5月20日	平成22年度東北・北海道土地連換地等強化事業担当者会議 (～21日)	北海道
6月25日	秋田県土地改良事業団体職員会50周年記念式典	秋田市

## 会 員 だ よ り

### 新理事長就任のお知らせ

次の方々が新たに理事長に就任されました。

○大館市二井田真中土地改良区 (H22.3.25)  
理事長 安 達 英 樹

○二ツ井白神土地改良区 (H22.4.1)  
理事長 安 井 操

### 職務代理者のお知らせ

○三種町 (H22.4.23～5.16)  
町長職務代理 副町長 北林 敏明

### 事務所移転のお知らせ

【新所在地】

○峰浜土地改良区 (H22.4.1)  
○峰浜村大沢土地改良区 (H22.4.1)  
〒018-2501  
山本郡八峰町峰浜水沢字寺の後1番地22  
五能線沢目駅舎内  
TEL 0185-76-2080 FAX 0185-76-2081

○仙北郡六郷町土地改良区 (H22.4.1)  
〒019-1404  
仙北郡美郷町六郷字上町21番地  
美郷町中央行政センター  
TEL・FAX 0187-84-1479

○秋田県仙南土地改良区 (H22.4.1)  
〒019-1234  
仙北郡美郷町飯詰字北中島35-1  
美郷町南行政センター  
TEL・FAX 0187-83-2379

○鳥海町笹子土地改良区 (H22.4.1)  
〒015-0721  
由利本荘市鳥海町上笹子字塚台65  
TEL・FAX 0184-59-2566



## 合併認可証伝達式



### 秋田県雄物川筋土地改良区

4月1日、重複・重畳解消を目的に横手市の2土地改良区と湯沢市の1土地改良区を吸収合併した「秋田県雄物川筋土地改良区」の合併認可証伝達式が県平鹿地域振興局で行われ、認可書が柴田理事長に手渡されました。

合併後の同土地改良区は、関係面積10,568ha、組合員数7,644名。

#### ○合併土地改良区 (H22.4.1～)

- ・名称 **秋田県雄物川筋土地改良区**
- ・代表者 **理事長 柴田 康二郎**
- ・住所 横手市平鹿町醍醐字浅舞山13-74
- ・電話 0182-32-2244

#### ○合併により解散した土地改良区 (H22.3.31付)

- ・平鹿郡大雄村田根森土地改良区
- ・平鹿郡大雄村田村野土地改良区
- ・湯沢市岩崎弁天土地改良区

### 二ツ井白神土地改良区

平成20年3月に合併予備契約を締結していた能代市の2土地改良区（山本郡市川堰、山本郡岩堰）が、新たに「二ツ井白神土地改良区」として4月1日にスタートしました。

新土地改良区は、関係面積410ha、組合員数570名。

#### ○新土地改良区 (H22.4.1設立)

- ・名称 **二ツ井白神土地改良区**
- ・代表者 **理事長 安井 操**
- ・住所 能代市二ツ井町飛根字富根144-1
- ・電話 0185-75-2121

(旧山本郡市川堰土地改良区事務所)

#### ○合併により解散した土地改良区 (H22.3.31付)

- ・山本郡市川堰土地改良区
- ・山本郡岩堰土地改良区

農林水産省

## ため池百選

一丈木ため池(美郷町)

小友沼(能代市)

が選定される!



一丈木ため池 (美郷町)



小友沼 (能代市)

3月11日(木)、第4回ため池百選選定委員会(農林水産省)が開催され、全国に約21万あるため池の中から「ため池百選」が選定された。本県からは、一丈木ため池(美郷町)と小友沼(能代市)が選ばれた。

ため池百選は、地域にとっての資源である“ため池”を、地域活性化の核として保全・活用する取り組みの機運を醸成するとともに、ため池の有する多様な役割と保全の必要性について国民の理解と協力を得るための契機にしようと実施された。

なお、詳細は農林水産省ホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/tameike/hyakusen.html>

インフォメーション

第8回 水土里のみちウォーキング in 仁井田waik

- 開催団体** (主催) 水土里ネット仁井田堰、秋田県ウォーキング協会  
 (共催) 秋田県、秋田市、秋田市教育委員会、水土里ネット秋田、水土里ネット秋田支部  
 (主管) 水土里のみちウォーキングin仁井田ウォーク実行委員会  
 (協賛) J A新あきた、秋田中央農業共済組合  
 (後援) 秋田花まるっグリーンツーリズム推進協議会、エフエム橋台79.6Mhz、  
 NPO法人あきたサイクリングタウン推進協議会
- 開催日時** 6月20日(日) ●ロングコース：8時30分出発式 (8時～受付開始)  
 ●ショートコース：9時30分出発式 (9時～受付開始)
- 開催場所** 秋田市四ツ小屋周辺 (集合場所：秋田市御所野 県老人福祉総合エリア内駐車場)
- コース** ①**ロング・コース14km 「所要時間：約3時間30分」**  
 エリア駐車場(スタート) → 四ツ小屋幹線水路 → せせらぎ水路広場 → ヤブレ沼 →  
 秋雄大橋 → 本田橋 → 豊成橋 → 仁井田堰頭首工 → 保量神社(仁井田堰幹線用水路) →  
 白山神社 → エリア駐車場 (ゴール)  
 ②**ショート・コース6km 「所要時間：約2時間」**  
 エリア駐車場(スタート) → 四ツ小屋幹線水路 → せせらぎ水路広場 → ヤブレ沼 →  
 白山神社(仁井田堰幹線用水路) → エリア駐車場 (ゴール)
- 募集定員** 250名 (ロングコース100名、ショートコース150名)
- 参加費** 一般200円(傷害保険料等)、中学生以下は無料(幼児・児童は保護者同伴のこと)
- 記念品** 完歩者には「お米」、「記念品」、「水土里のみち完歩認定証」をプレゼント
- 申込メチ** 参加希望者は、ハガキに必要事項を記入の上、下記まで申してください。  
 ①参加者氏名 ②年齢 ③性別 ④住所 ⑤電話番号 ⑥参加コース (14kmまたは6km)  
**平成22年6月4日(金) 必着** ※ 定員なり次第締切いたします。(当日受付不可)  
 ※ 参加の可否は、後日ハガキにてお知らせいたします。

【申込・問い合わせ先】 水土里のみちウォーキングin仁井田ウォーク実行委員会 (水土里ネット仁井田堰)  
 〒010-1421 秋田市仁井田本町4-5-20 TEL.018-839-2504 FAX.018-839-2292

野山の花 ユキワリソウ



4月上旬、可憐でかわいい花を見つけました。(写真提供/井島めぐみ)

編集後記

◆4月に入り、気持ちも新たに新年度を迎えましたが、なぜかまだまだ寒さが身に凍みています。県内の桜も、開花まで一休みと言ったところですが、ようやく、近所の庭先に梅やツバキ、フクジュソウの鮮やかな色合いを目にするようになりました。間もなく、百花繚乱(ひゃっかりょうらん)の季節。さまざまな花々が咲き競う様子を鑑賞していると、心も和んできます。今年度も「秋田の土地改良」は、タイムリーな情報を発信していきたいと思しますので、よろしく願いいたします。  
 (広報・渉外班◆嵯峨記)

**表紙写真** 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「いっしょうけんめい」

※本印刷用紙は、大昭和板紙秋田工場で生産された(地産地消製品)を使用しております。